

	発言者氏名	藤野 英明
発言の会議	平成 20年 5月 13日	本会議
発言の種類	質 疑、個人質問、緊急質問、討 論、その他	
答弁を求める者	市長	
件 名 及 び 発 言 の 要 旨	<p><b>1. 蒲谷市長の責任問題について</b></p> <p>(1) 横須賀市制101年の歴史において34代続く横須賀市長の中で、わずか1期目の在任中に有権者から2度にわたって直接請求を出された市長はこれまで存在しているのか。</p> <p>(2) もしも前問の答弁が「蒲谷市長だけしか存在しない」のであるならば、蒲谷市長は「政治家」としてご自身の「責任」をどのように考えているのか。</p> <p>(3) 原子力空母配備のわずか3ヶ月前にも関わらず、こうした直接請求が有権者から起こったことを、米軍基地があることに常に向き合わざるをえない横須賀市の「市長」として、蒲谷市長はご自身の「責任」をどのように考えているのか。</p> <p><b>2. 現在までの本市の安全対策の問題と今後の在り方について</b></p> <p>(1) 今回、直接請求された住民投票条例案には「安全対策」についての問いが含まれている。この事実が示していることは（昨年臨時議会での住民投票否決以降、現在に至るまでの）、原子力空母の母港化問題について市長が取り組んできた「安全対策についての諸施策」では、有権者に安心を与えることができず、むしろ受け容れられていないことが原因ではないのか。</p> <p>(2) 前問と同じく、「安全対策」の「情報提供・広報」の取り組みも、有権者の不安を解消・払拭できるものでは無かったことを意味しているのではないか。</p> <p>(3) 有権者と全ての市民の不安を解消する為に、蒲谷市長が今後「安全対策」として行なう全ての取り組みについて、対策のスケジュールとその効果について、改めてその全てを明らかにすべきではないか。</p>	

件名及び  
発言の要旨

**3. 凶悪な米兵犯罪の続発が、今回の署名数が1万人も増加した1つの原因ではないのか**

(1) 原子力空母の母港化により横須賀に米軍・軍属の数が増加することは周知の事実である。そうした事情に加えて、近年、「国内で続発しているアメリカ兵による凶悪犯罪」が今回の署名数の増加につながった、と分析するのは当然だと私は考えるが、市長はどのようにお考えか。

また、これは同時に「市内でも続発しているアメリカ兵による凶悪犯罪」に対する本市の犯罪防止への取り組みが弱く、有権者に市の米兵犯罪防止策が支持されていないことも示しているのではないかと。

**4. 蒲谷市長は自らの政策について横須賀市民とさらに積極的な対話をくりかえし行なうべきではないか**

(1) 立候補時に通常型空母のみの受け入れを選挙公約とした蒲谷市長と、その公約を信じたにも関わらず今年8月には原子力空母の母港化が迫っているという実態を全く受け容れられない有権者・市民と、いまだ両者の間で対話が全く足りていないことがこうした直接請求につながったと私は考えるが、蒲谷市長はどのように受け止めているか。

**5. 住民投票の「対象事項」の基準に対する、蒲谷市長の現在の見解について**

(1) 住民投票の対象事項を具体的に挙げていくことを「ポジティブリスト」と呼び、そぐわない事項を「ネガティブリスト」と呼ぶが、昨年第1回臨時議会では「それぞれを列挙して蒲谷市長なりの見解を示してほしい」との私の質疑に対して、市長は「第26次地方制度調査会」の平成12年10月答申をあげて「引き続き検討中である」として明確な答弁を避けた。しかし、今回の質疑ではそうした「調査会の一般論」ではなく、政治家であり地方自治体の長である蒲谷市長ご自身の持論をお答えいただきたい。蒲谷市長が考える住民投票の対象事項の「ポジティブリスト」と「ネガティブリスト」とは何か、可能な限り「個別」かつ「具体的」に列挙してお答えいただきたい。

(2) もしも前問の答弁を明確に述べないのであれば、それは、「住民投票の対象とは、そのときの市長が恣意的に決められるものだ」と市民に受け止められかねないが、この点はどのようにお考えか。